



(公社)神奈川労務安全衛生協会

小田原支部

小田原市本町2-3-24

TEL 0465-24-1753

発行責任者 支部長 川村豊彦

編集 広報部会



おだわら諏訪の原公園

第一三共ケミカルファーマ(株) 石川 紀弘 氏 撮影

第74回 全国労働衛生週間スローガン

『目指そうよ二刀流』

こころとからだの健康職場』

令和 5 年度

全国労働衛生週間を迎えて

小田原労働基準監督署 署 長 き む ら た か し
木 村 隆 志



日頃から、各事業場の皆様方におかれましては、労働基準行政及び小田原労働基準監督署の業務運営に多大な御理解・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、労働災害防止のため、日々安全衛生活動をされている皆様方に改めて感謝いたします。

本年度は第14次労働災害防止計画の初年度にあたります。労働衛生に関する重点対策としては、「労働者の健康確保対策（メンタルヘルス、過重労働、産業保健活動）」、「化学物質等対策（化学物質、石綿、粉じん、熱中症、騒音、電離放射線）」の推進が掲げられ、その他「高年齢労働者の労働災害防止対策の推進」や、「労働者の作業行動に起因する労働災害（転倒災害、腰痛）防止対策の推進」も挙げられています。

このような背景を踏まえ、今年度は、「目指そうよ二刀流 こころとからだの健康職場」をスローガンとして第74回目の全国労働衛生週間

が展開されます。

令和 4 年の神奈川県内における職業性疾患による休業 4 日以上之死傷者数は 728 人（新型コロナウイルス感染症を除く）であり、依然高止まりの状況にあります。その内訳は、腰痛が 570 人と全体の約 8 割を占めており、次いで熱中症、化学物質による疾病、有害光線による疾病、上肢障害が発生しています。

働き方改革の推進により、女性や高齢者が仕事に就きやすくなり、多様な働き方が可能となる一方、それに応じた労働災害防止対策や産業保健活動の推進が急務となっていることから、各職場に置かれましては、全国労働衛生週間を契機に、労働者の健康管理や職場環境の改善向上を図るとともに、職場の自主的な活動により労働者の健康確保を推進し、誰もが安心して健康に働ける職場づくりへのご協力をお願いします。

全国労働衛生週間

❀ 小田原地区推進大会に参加して ❀

令和 5 年度全国労働衛生週間小田原地区推進大会は、新型コロナウイルス感染防止に十分配慮した上で、会場参加形式での開催になりました。本年度のスローガンは「目指そうよ二刀流 こころとからだの健康職場」です。

労働基準監督署より労働災害状況や大会の推進内容についてご説明頂きました。令和 4 年度は死亡災害が目標の 0 件を達成できたとの報告がありましたが、依然転倒災害は減少していないとのこと。各事業所に於いても今後の大きな課題となり、しっかり取り組んでいかなければならないと改めて感じました。

令和 5 年度安全衛生表彰を受賞された 2 事業所より、各々の取り組みについての発表があり、2 事業所の取り組みに感銘を受けました。

特別講演では、中央労働災害防止協会 健康快適推進部 上席専門役 浜谷 啓三様に「人生 100 年時代



自分の身体を知ってセルフメンテナンス」というテーマでご講演頂きました。講演内容の中で、「働く人の高齢化と課題」のお話が

ありました。私も今、61 歳になっており、とても興味がある内容でした。又、日本に於いて 100 歳以上の方が何人いるかの問いかけがあり、私は 500 人くらいかなと思いましたが、令和 4 年の時点で 9 万 5 千人、令和 5 年には 10 万人を超えるのではというお話でした。まさに人生 100 年時代と実感しました。高齢化は避けて通れない問題です。高齢になって働くということは、「今からしっかりと目標を立て健康づくりをして行くこと」を学びました。又、健康とは自分が「このような人生を送りたい、ある目的をかなえたい」と思った時に、それを可能にするために必要な資源である。「健康づくりは自分を知ることから始める」ということも教わり、まさにその通りだと思いました。

講演の最後に健康づくりは「大きな努力より 小さな習慣！」と教えて頂いたので、私なりに実行して行こうと思います。小田原地区推進大会に参加させて頂き、多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。

（相日防災株式会社 川口聖人）

小田原労働基準監督署からのお知らせ

第 14 次労働災害防止推進計画(小田原計画)を策定しました ～「14 次防 取組状況調査票」のご提出をお願いします～

厚生労働省で策定した「第 14 次労働災害防止計画」及び神奈川労働局で策定した「第 14 次労働災害防止計画(神奈川計画)」に基づき、小田原労働基準監督署管内の事業場における労働者の協力の下で事業者が実施するアウトプット指標を定め、その指標の達成に向け、署、事業者、労働者が一体となって推進するための「第 14 次労働災害防止推進計画(小田原計画)」※¹を策定しました。

※ 1



第 14 次労働災害防止推進計画 (小田原計画)

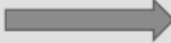
～第 14 次労働災害防止計画(神奈川計画)に基づく小田原労働基準監督署の達成目標等～

計画期間：2023 年度～2027 年度(令和 5 年度～令和 9 年度)までの 5 か年

計画の目標

◎死亡災害について、13 次防最終年(2022 年)の 0 人を 14 次防期間中継続する。

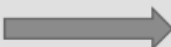
2022 年 0 人



2023 年から 2027 年まで 0 人

◎休業 4 日以上之死傷災害について、13 次防最終年(2022 年)の 378 人に対し、5%以上減少する。

2022 年 378 人



2027 年 359 人以下

単位：人 (注) コロナによる死傷災害は除く	基準	目標	初年	2 年目	3 年目	4 年目	最終年
	2022 年		2023 年	2024 年	2025 年	2026 年	2027 年
死亡災害 (上段は計画値)	0	0	0	0	0	0	0
死傷災害 (上段は計画値)	378	359 以下	374	370	366	362	359 以下

つきましては、当該計画のアウトプット指標達成状況の把握を通じて事業場の安全衛生管理の自主的な改善に役立てていくため、「14 次防取組状況調査票」※²にご記入いただき、ご提出いただきますようお願いいたします。なお、当該調査票の提出方法につきましては、インターネット上の報告フォーム※³に記入して送信していただくか、神奈川労働局HP内の「小田原労働基準監督署からのお知らせ」ページにある Word 様式※²に記入したものを郵送・持参等でご提出ください。

※ 2



※ 3



※ 4



神奈川県最低賃金の改正について

令和 5 年 10 月 1 日(日)から、神奈川県最低賃金は、時間額 1,112 円(41 円引き上げ)となります。詳細については、神奈川労働局労働基準部賃金室または管轄の労働基準監督署までお問い合わせいただくか、神奈川労働局のHP内の「最低賃金のお知らせ」ページ※⁴をご参照ください。

～令和5年度～

中央労働災害防止協会緑十字賞



日頃、「安全最優先」が事業の基盤とし微力を尽くしてまいりました。また、支部での職長教育や新入者安全衛生教育講師の活動を評価していただき、このような晴れがましい栄誉を得ましたことは、ひとえに、小田原支部をはじめ各会員事業場の皆様のご指導の賜物と心から感謝しております。引き続き小田原支部の活動を通して会員事業場様の「安全・安心」作りのお手伝いに努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

日本製紙クレシア株式会社開成工場 梶崎俊彦

～令和5年度～

厚生労働大臣表彰奨励賞

去る、7月7日横浜第二合同庁舎にて令和5年度厚生労働大臣奨励賞の伝達式が行われました。高橋工場長が出席し、表彰状と盾が授与されました。受賞にあたり、弊社事業所を推薦していただいた小田原労働基準監督署の皆様方に改めて感謝申し上げます。山北工場では、全従業員に受賞の報告を行いました。長きにわたり緩むことなく従業員が一丸となって築き上げた安全文化を今後も継承していきたいと思ひます。

三菱ガス化学株式会社山北工場 須田和哉



～令和5年度～

神奈川県労働局長奨励賞

この度の神奈川県労働局長奨励賞の受賞に際し、弊社の安全衛生に対する取り組みを表彰いただきましたこと、誠に光栄に存じます。また、御推薦いただきました小田原労働基準監督署の皆様には改めて感謝申し上げます。



今回の受賞を機に、改めて安全衛生に関する意識を高め、小田原事業所の従業員が一丸となって健康保持増進に取り組んでまいります。

株式会社ミクニ小田原事業所 尾藤栄治

衛生部会活動と役員紹介

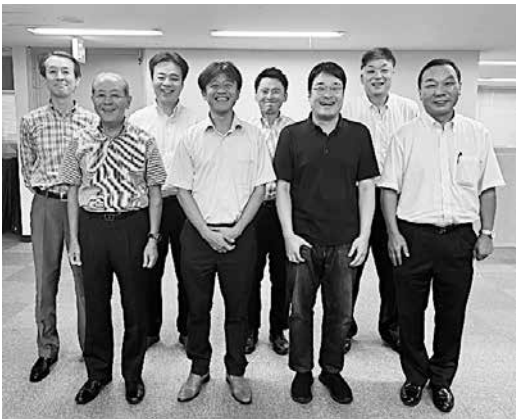
【衛生部会活動】～受動喫煙対策および健康保持増進講習会の企画/開催～

衛生部会は現在8社の役員事業場によって構成されており、主に健康保持増進講習会の企画や労働衛生分野における様々な課題の改善に取り組んでいます。

ここ数年は受動喫煙対策に注力しており、本年3月には役員事業場36社を対象として喫煙環境の実態調査を行いました。喫煙環境の改善のSTEPを3段階に区分したところ、それぞれのSTEPに3分割されることが分かりました（グラフ参照）。STEP3を目指し今後も活動を継続していきます。

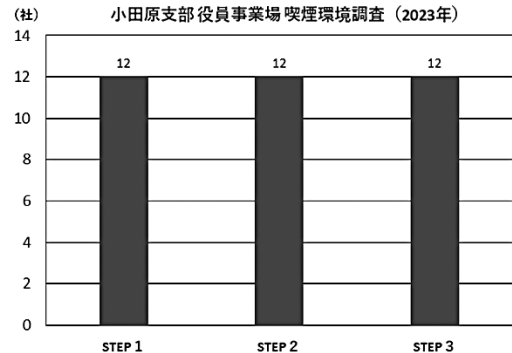
今期は既にご案内させて頂いている「転倒予防に役立つからだの使い方と作り方」セミナーに加え、12月にも「快適睡眠の実践」セミナーを企画しています。リアル＆オンデマンド配信での開催となりますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【役員紹介】



（写真左から）

部会長	藤田観光(株)箱根小涌園	柏木 宣宏
副部会長	(株)アグサ	小川 政之
	紀伊産業(株)鴨宮工場	松崎 勝彦
	神奈川柑橘果工(株)	伊藤 祐康
	大東カカオ(株)中井工場	鳶野 大輔
	日本インジェクタ(株)	府川 和弘
	ライオン(株)小田原工場	石川 和広
	相日防災(株)	川口 聖人



上位目標

- STEP3：敷地内全面禁煙
- STEP2：屋外の指定場所でのみ喫煙可能（屋内全面禁煙）
- STEP1：屋内・屋外の指定場所でのみ喫煙可能

令和5年度 労務安全衛生管理夏季講座に参加して

2023年8月3日、4年ぶりの集合開催となりました。参加者も男女年齢問わず幅広く参加。

第一部：参加者全員を対象に【基調講演】「労働基準行政の現状と課題について」

第二部：分科会方式となり 【第一分科会】「これからの化学物質管理の実務について」

事例発表 スリーエムジャパンイノベーション(株)「化学物質管理について」

【第二分科会】「健康危機に備える（災害・新興感染症）」

化学物質管理とBCPをテーマとし、各企業が進め方に苦慮している内容に着目し開催。各講師の方々は、事例も交えた講義をして頂き参考になる内容となっておりました。講演後は、議論の場【グループ討議】が設定され、各企業の取り組み方や、進めて行く上での苦労話し、解決策等々を議論・共有出来ました。

私の参加した第一分科会は、6名＋協会員にて小グループを編成しグループ討議を行いました。各企業での取組内容・推進体制も多種多様となっており、具体的な活動を聞くことが出来、自社の取り組みに対する課題や反省点などもみつき、良い情報を社に持ち帰ることが出来ました。今後も、その時々ホットな話題をテーマにして頂き開催して頂ければと思います。受付や会場案内、その他進行も丁寧に対応して頂きありがとうございました。

紀伊産業(株)鴨宮工場 松崎勝彦



【事務局だより】

事務局長 鎌田 光郎

新たな化学物質管理体制を求める法改正まで半年余りとなりました。
必要に応じて、追加講習・出張講習等も検討しますのでお問い合わせください。

〈10 月中旬～ 12 月 開催講習会〉

- * 1 トン未満フォークリフトの運転業務に係る特別教育
・ 10 月 19 日(木) 青色会館
- * 健康保持増進講習会
テーマ：転倒予防に役立つからだの使い方と作り方
・ 10 月 24 日(火) 青色会館
・ 11 月 1 日(水)～ オンデマンド配信
- * フルハーネス型墜落制止用器具特別教育
・ 10 月 25 日(水) 青色会館
- * 「化学物質管理者」選任のための研修
・ 10 月 31 日(火) 青色会館
- * 有機溶剤従事者に対する労働衛生教育
・ 11 月 2 日(木) 青色会館
- * 職長教育
・ 11 月 7 日(火)、8 日(水) 青色会館

- * リスクアセスメント研修会
～自律的な化学物質管理導入に向けて～
・ 11 月 15 日(水) 青色会館
- * 玉掛の業務に係る特別教育
・ 11 月 22 日(水) 青色会館
- * 安全管理者選任時研修
・ 11 月 28 日(火) 青色会館
- * 危険体感講習会
・ 11 月 30 日(木)
富士フィルム研修センター
- * クレーンの運転の業務に係る特別教育
・ 12 月 1 日(金) 青色会館
- * 粉じん作業特別教育
・ 12 月 5 日(火) 青色会館
- * 安全衛生推進者養成講習会
・ 12 月 14 日(木)、15 日(金) 青色会館
- * 保護具着用管理責任者選任のための研修
・ 12 月 19 日(火) 青色会館
- * 健康保持増進講習会
テーマ：快適睡眠の実践
・ 12 月 20 日(水) 青色会館
・ 12 月 25 日(月)～ オンデマンド配信
- * フルハーネス型墜落制止用器具特別教育
・ 12 月 22 日(金) 青色会館
- * 職長の能力向上教育
・ 12 月 26 日(火) 青色会館

散 歩 道

私の実家ではお米作りをしている。品種は『はるみ』で、湘南地域の「晴れた海」が名前の由来。キヌヒカリとコシヒカリを交配して生まれた品種で、ツヤ、甘み、粘りがある。苗を育てることからはじめ、田に水を入れて代かき（田んぼの土を細かく砕き平らにする）を行い、5月下旬に田植えを行う。収穫までの間、水管理、追肥、除草作業を適宜行い、10月からは毎週末に家族と親戚総出で稲刈り、乾燥・もみすり作業を行う。

今まで主力で働いていた両親も高齢になり、

私と兄で引継ぎ中だ。
農業においても機械化が進み、負担が軽くなる一方、トラクターや機械の操作を誤った事故も増えている。会社の業務と一緒に作業前には危険な箇所や作業がないか十分に安全確認し、あわせて腰痛対策もしっかり行っている。一人前になるまでにほど遠く、分からないことが多いお米作りであるがいつか我が子から「おいしいお米だね」と言われるよう、両親からしっかり継承したい。



(広報部会 細谷誠治)